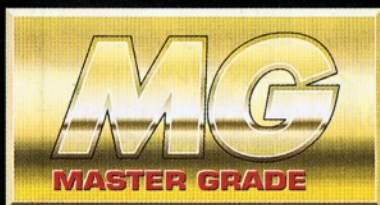


MOBILE SUIT  
MSN-00100

# HYAKU-SHIKI + BALLUTE SYSTEM

A.E.U.G. ATTACK USE  
PROTOTYPE MOBILE SUIT



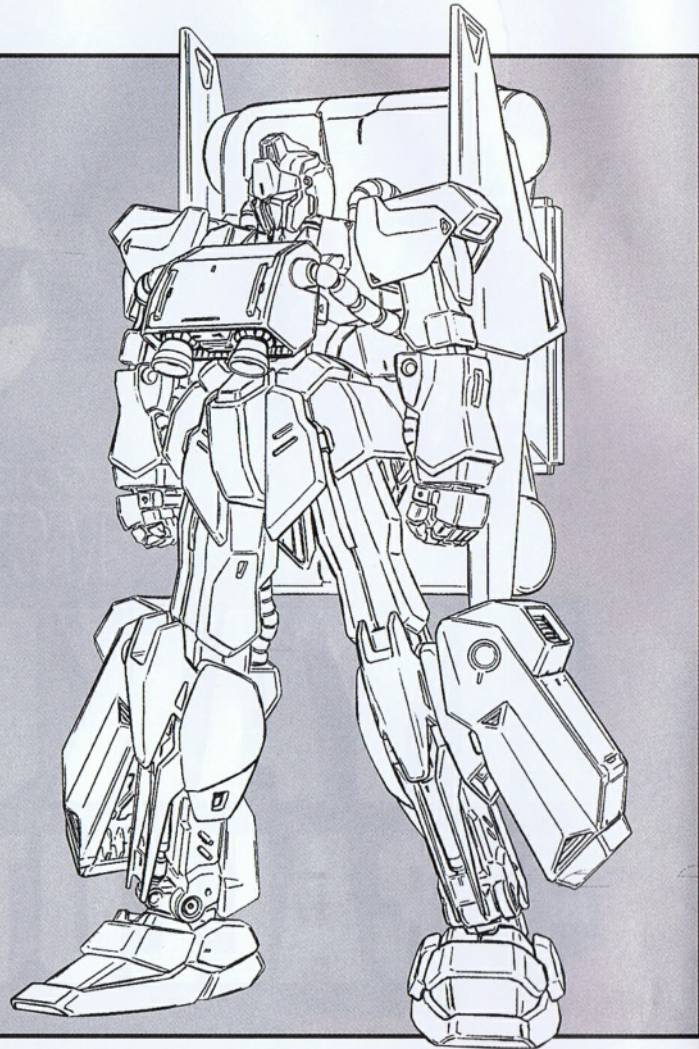
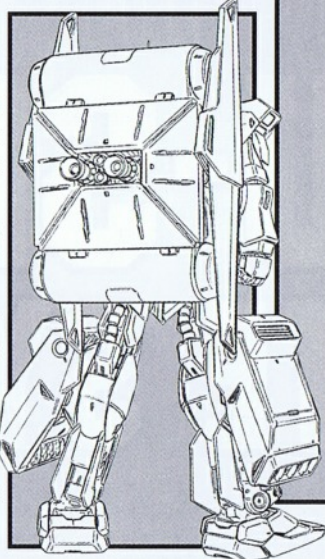
反地球連邦政府組織 (エウゴ)  
攻撃型モビルスーツ  
MSN-00100「百式+バリュートシステム」  
1/100スケール  
マスターグレードモデル



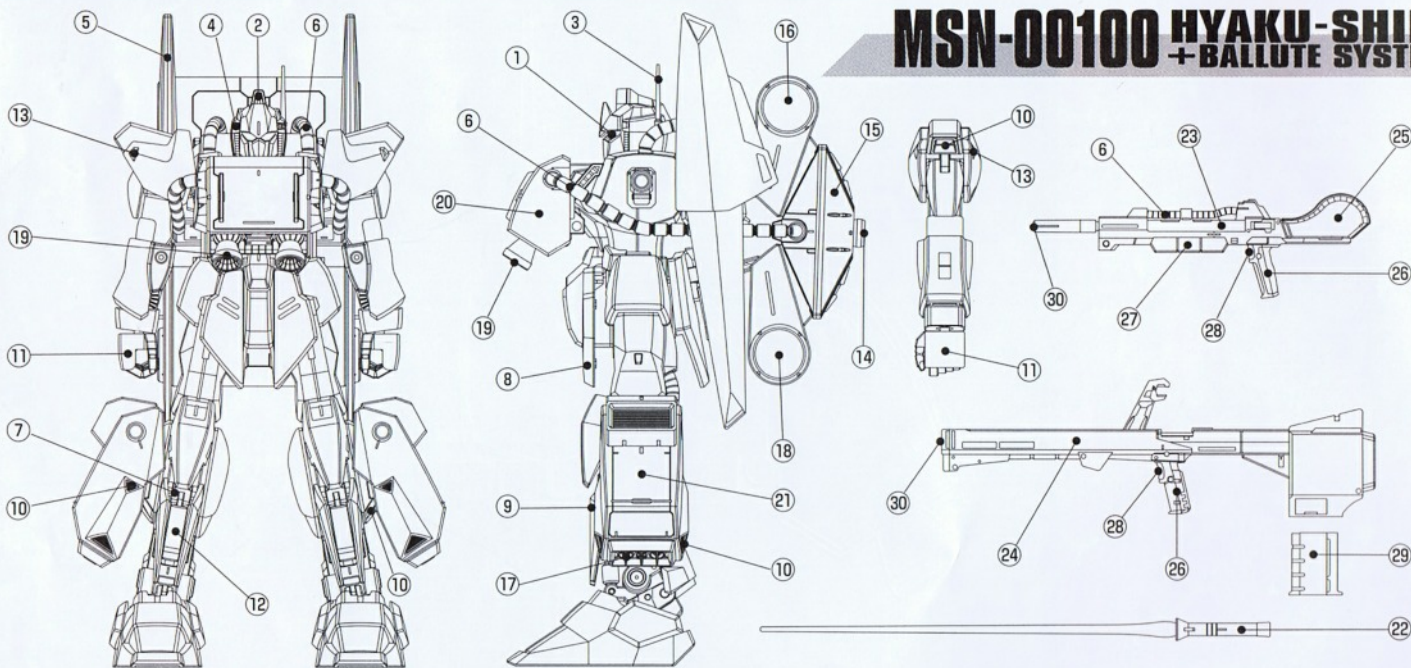
# MSN-00100 HYAKU-SHIKI +BALLUTE SYSTEM

「百式」は、エゥーゴとアナハイム・エレクトロニクス社が推進する「Zプロジェクト」によって開発された攻撃型MSである。当初はTMS(Transformable Mobile Suit=可変MS)として開発されていたが、変形機構に欠陥が発覚。急速、非変形機として仕様変更され、当時の標準的な量産機とは一線を画す高性能機として完成した。脚部の独立式デュアルフロートアーマーや背部のフレキシブル・バインダーなどは可変機としての名残であると言われており、後に、バリエーション機も開発されている。百式の開発母体となったのは、リック・ディアス以降の開発計画における近接戦闘・格闘用MSの基礎フレームで、それにRX-178 ガンダムMk-IIの奪取によって入手したム・バブル・フレームのコンセプトが導入された。また、可変構造の放棄に伴って、研究中の各種装備の運用試験などへの投入が決定したため、そのアビオニクスは複雑化しており、基本的にはワンオフの機体となっている。特に背部のフレキシブル・バーニアバインダーは、空力的にも優秀であったため、重力下における空中戦などにおいても有効に機能したと言われている。百式が実戦に投入されたのは、グリプス戦役が本格化した時期であり、不足しがちなエゥーゴの戦力が整いつつある時期でもあった。Zプロジェクトによる主力機「Z(ゼータ)ガンダム」は未だ開発中だったが、百式はその計画のスピンオフともいえる機体であり、投入からジャブロー攻略戦を経て、グリプス2攻防戦に至るまで、グリプス戦役のほぼ全期間にわたり、エゥーゴのMS部隊における主力の一角を担っていたのである。

「バリュートシステム」とは耐熱/難燃性繊維でできたボウル状のバルーンと、パラシュートおよび増設バーニアスラスタ、地上移動用ホバーなどを含むMS用の大気圏突入用特殊装備。主な特徴は、HLVなどと比べ圧倒的にローコストなことであり、大気層において活動する場合など、携行が義務づけられているケースもある。任務によっては、いわゆる「救命ボード」的に認識されている。



Conceptual illustration : BEE-CRAFT



- |             |                  |               |             |           |
|-------------|------------------|---------------|-------------|-----------|
| ①メインカメラ     | ⑦SASシリンダーユニット    | ⑬マイクロスラスタ     | ⑲減速用バーニア    | ⑲エネルギーバック |
| ②サブカメラ      | ⑧フロントフロートアーマー    | ⑭デフレクターノズル    | ⑳胸部バーニアユニット | ⑳グリップ     |
| ③マルチロッドアンテナ | ⑨プロテクションフロートフレーム | ⑮バリュートパック     | ㉑脚部バーニアユニット | ㉑ストック     |
| ④60mmバルカン   | ⑩サブスラスタ          | ⑯パラシュートトラック   | ㉒ビーム・サーベル   | ㉒トリガー     |
| ⑤バーニアバインダー  | ⑪マニピュレーター        | ⑰地上用ホバーノズル    | ㉓ビーム・ライフル   | ㉓マガジン     |
| ⑥パワーサブライヤー  | ⑫アクチュエーターシリンダー   | ⑱サブ・プロペラントタンク | ㉔クレイ・バズーカ   | ㉔マズル      |

注) MSN-00100 百式は、U.C.0087年3月下旬にアーガンに配備された。この機体は同年5月11日、エゥーゴ艦隊がジャブロー基地攻略のため、大規模な地球降下作戦を実行した際にバリュートシステムを装着した状態のものである。



## ⚠ 注意

### 必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

### 〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。



・接着をするところ



・シールの番号



・デカールの番号



・反対側に取り付けるパーツ



・両側に同じパーツを取り付ける



・向きに注意して取り付ける



・ビスの締めすぎに注意



・切り取る場所



・部品を数値の個数作ります



・先に組み立てます



・後に組み立てます



・数値に合わせて回転させます



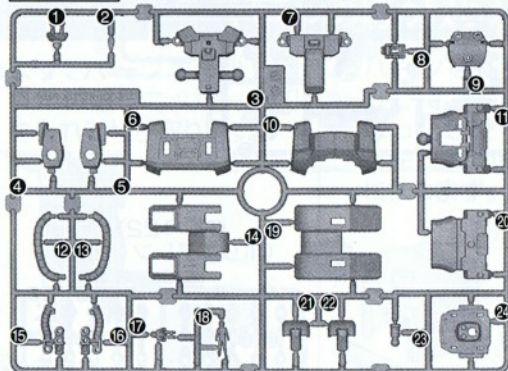
・どちらかを選んで取り付ける



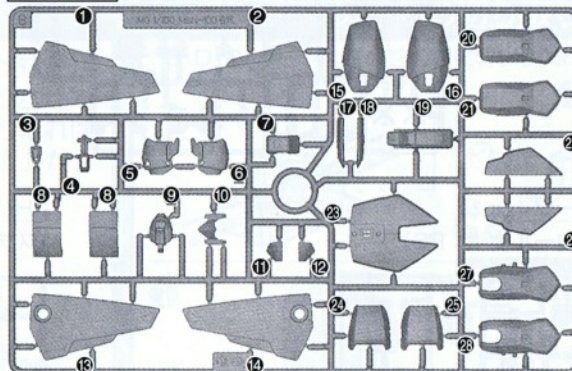
・反対側も同じように動かします

## パーツリスト

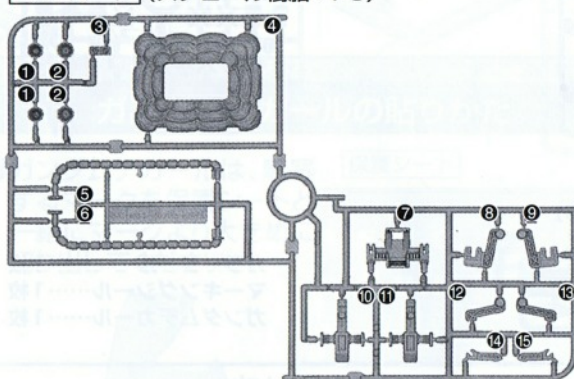
Aパーツ (スチロール樹脂: PS)



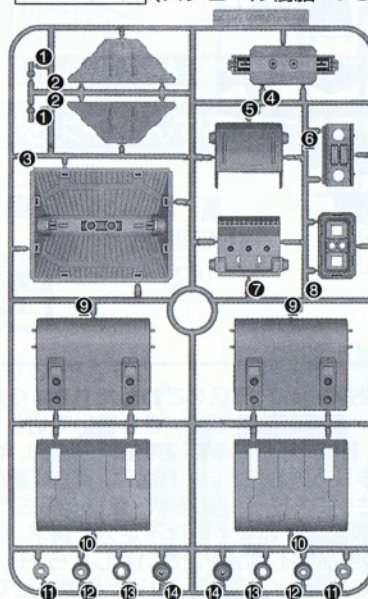
Bパーツ (スチロール樹脂: PS)



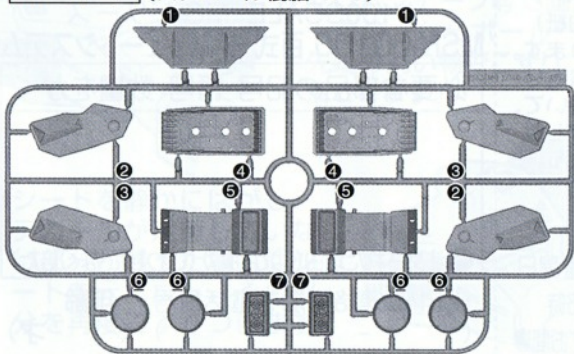
BA1パーツ (スチロール樹脂: PS)



BA2パーツ (スチロール樹脂: PS)



BA3パーツ (スチロール樹脂: PS)









# 組み立て前の基本説明

## 必要な道具

〈ニッパー(プラスチック用)〉  
・パーツをランナーから切りはなしてゲートを取るのに使います。

〈ピンセット〉  
・小さい部品を取り付けたりシールを貼るのに便利。

〈はさみ〉  
・ガンダムデカールを切りはなす際に使用します。

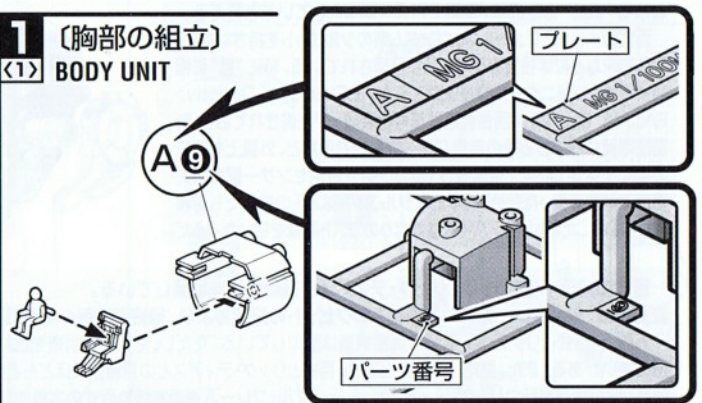


※この商品に道具類は入っていないので、別にご用意ください。

## 説明書の見かた。

説明書のパーツに書いてある番号と同じものをランナーから探しましょう。(パーツリスト表と合わせて見ると、探しやすいでしょう。)

1 [胸部の組立]  
1-1 BODY UNIT

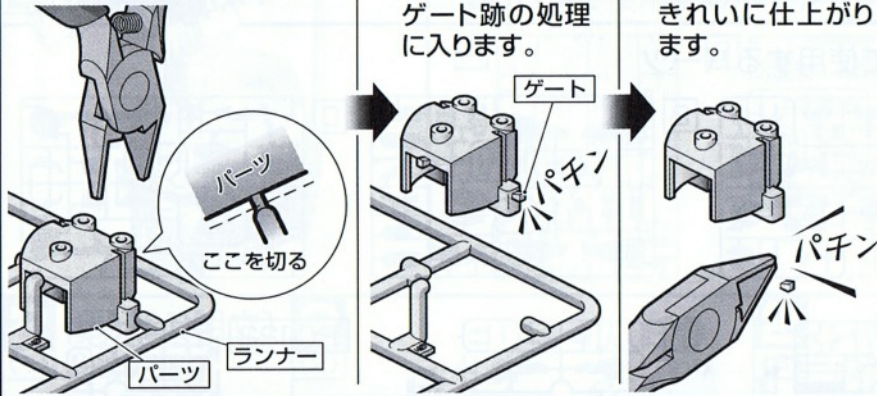


## パーツの切り取りかた。

①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

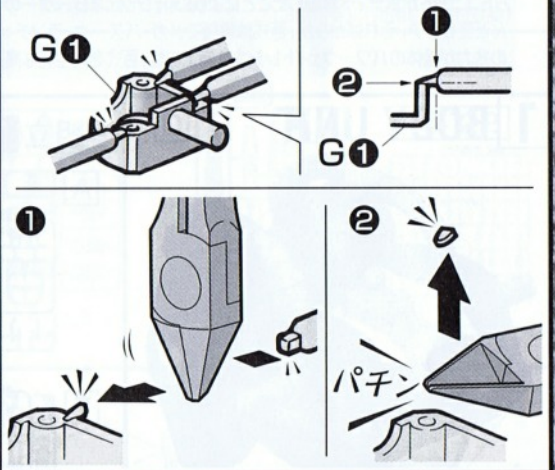
②パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲート跡の処理に入ります。

③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



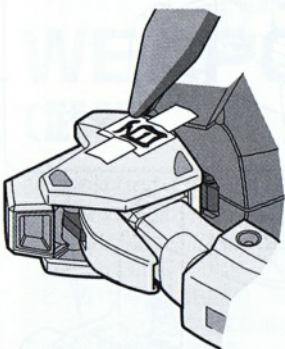
## アンダーゲートの切り取り方

※B・D・G・パーツは下の図の様に切り取ります。



## ガンダムデカールの貼りかた。

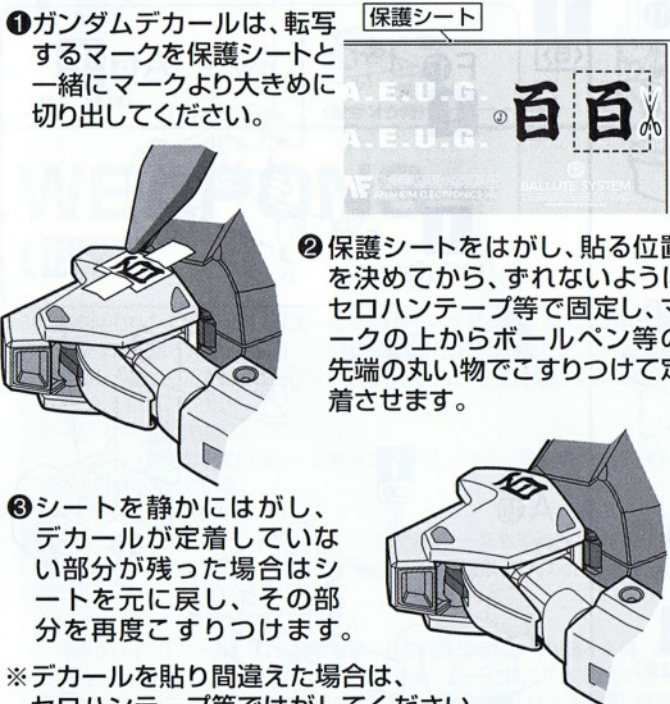
①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。



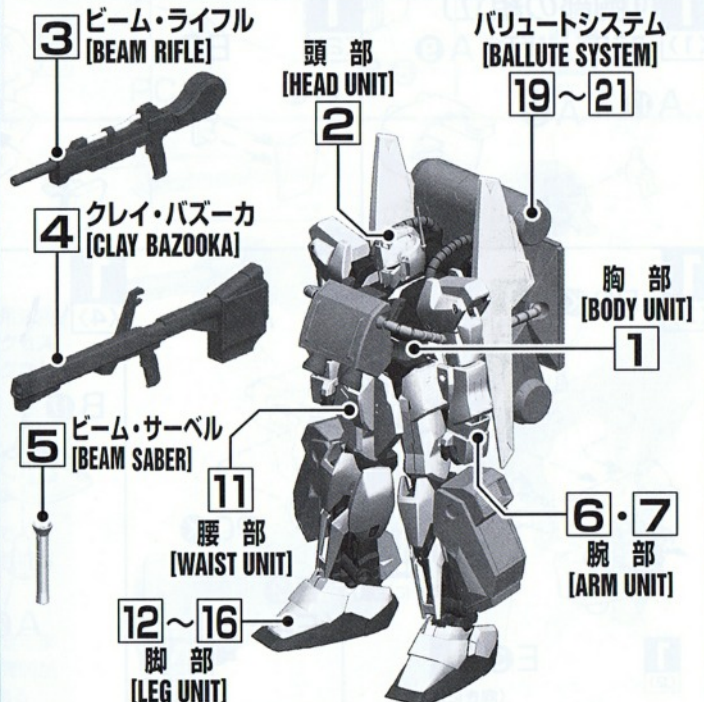
②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。



## 説明書をよく読んで完成させましょう。



【部品表】  
PARTS LIST  
【基本説明】  
HOW TO  
【胸部】  
BODY UNIT  
【頭部】  
HEAD UNIT  
【武器】  
WEAPONS  
【腕部】  
ARM UNIT  
【腰部】  
WAIST UNIT  
【脚部】  
LEG UNIT  
【完成】  
FINAL ASSEMBLY  
【シール】  
SEAL

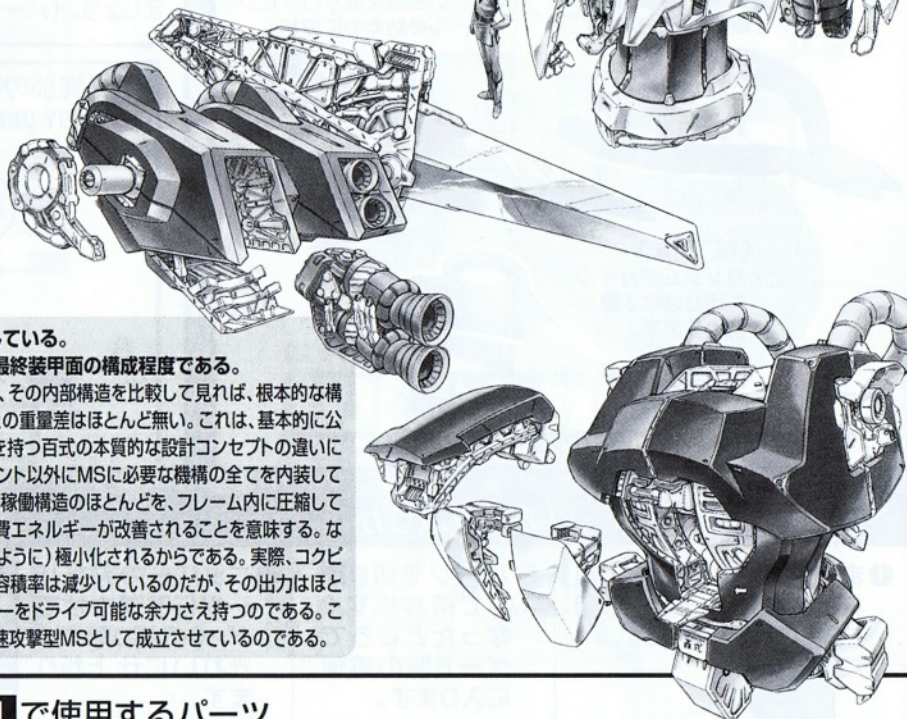


# HEAD UNIT & BODY UNIT

## (頭部)

百式のヘッドユニットは、Zプロジェクト進行中に開発されたため、Zガンダムの設計に多大な影響を与えている。Zガンダム自体、プロトタイプには複数のヘッドモジュールの案があったのだが、いわゆる“Z系”の意匠は、事実上百式を原型としていると言える。

百式のヘッドモジュールは、ガンダム系のシルエットを持ちながら、走査端末などには独自のデバイスが装備されている。特に“目”に相当するメインモニターにはイデシステム「IDE=Image Directive Encode System=画像管理型符号化装置」が装備されており、精密照準時などにある種の走査パターンが現れるなど、外観上も独特の挙動を見せていた。他にも、バルカン砲や各種センサー配置も高密度で可能であったため、基本的なシルエットはZ系の機体でも踏襲されている。ただし、各デバイスはかなりのコスト高騰を招いたようだ。



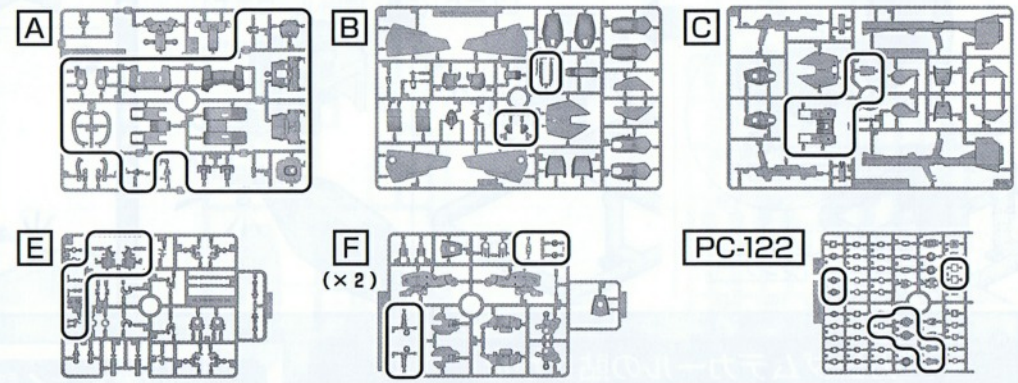
百式のボディユニットは、リック・ディアスの基礎構造を踏襲している。変更点は、ジェネレーターの小型化とコクピットの配置および、最終装甲面の構成程度である。

外観上、百式とリック・ディアスの胸部構造は酷似している。ただし、その内部構造を比較して見れば、根本的な構造の違いがある。また、見た目の印象と違い、百式とリック・ディアスの重量差はほとんど無い。これは、基本的に公国系MSの構造を持つリック・ディアスと、ムーバブル・フレーム構造を持つ百式の本質的な設計コンセプトの違いによる。ムーバブル・フレームは、基本的に武装と装甲、そしてプロペラント以外にMSに必要な機構の全てを内装している。つまり百式は、リック・ディアスが、装甲の内側に詰め込んでいる稼働構造のほとんどを、フレーム内に圧縮して内装しているのである。このことは、駆体そのもののレスポンスや消費エネルギーが改善されることを意味する。なぜなら、それぞれの部位に発生する慣性モーメントが(傘を畳むかのように)極小化されるからである。実際、コクピットユニットがボディへ移動したことにより、メインジェネレーターの容積率は減少しているのだが、その出力はほとんど変わらず、そればかりか、百式は単機でメガ・バズーカ・ランチャーをドライブ可能な余力さえ持つのである。この余力が機体のパワーウェイトレシオを向上させ、百式を高性能な高速攻撃型MSとして成立させているのである。

## 1 BODY UNIT



### ・組立 1 で使用するパーツ



**1 (1) [胸部の組立] BODY UNIT A9**

**1 (2)**

**1 (5)**

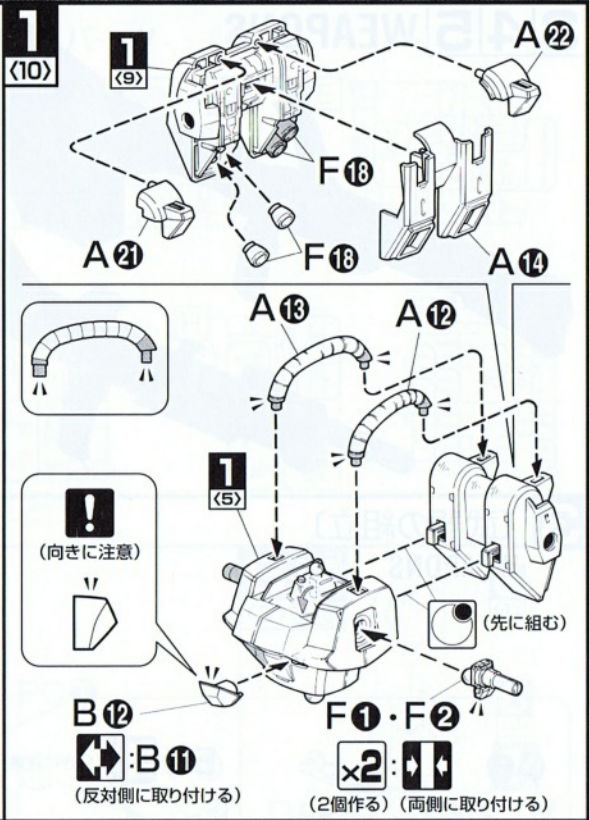
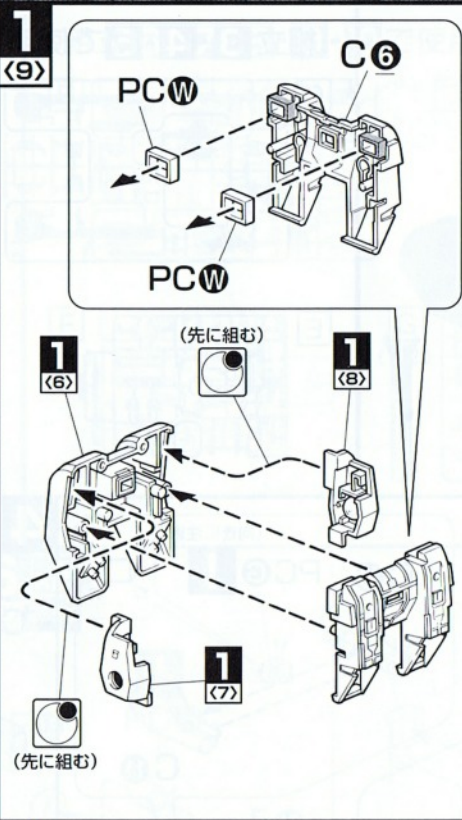
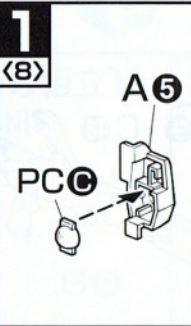
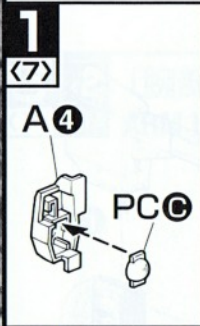
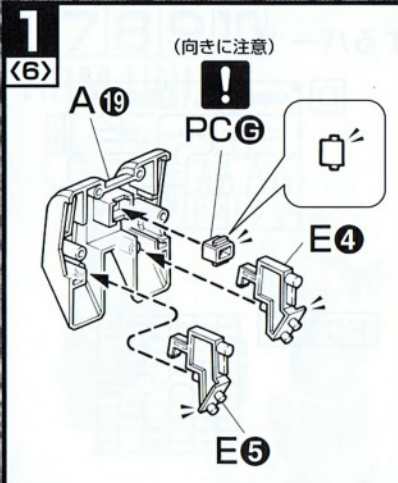
**1 (3)**

**1 (2)**

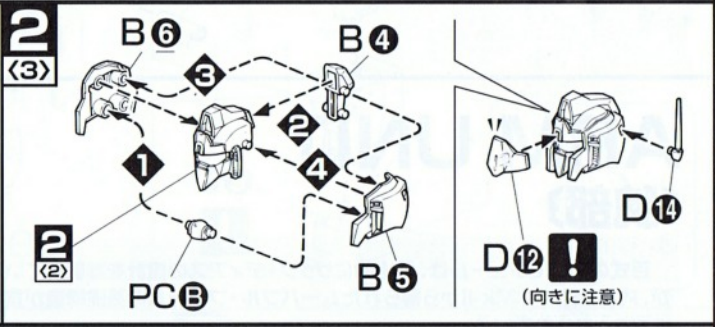
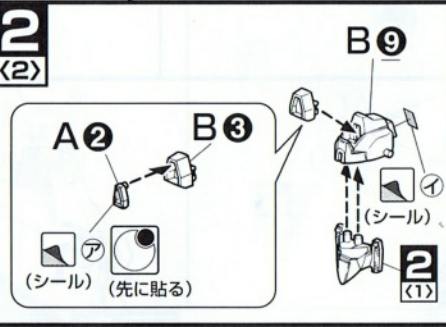
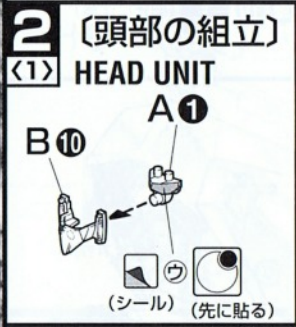
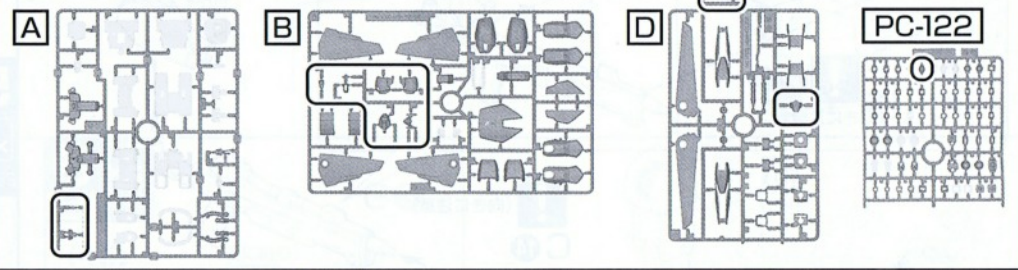
**1 (4)**

**1 (3)**





・組立2で使用するパーツ



# WEAPONS

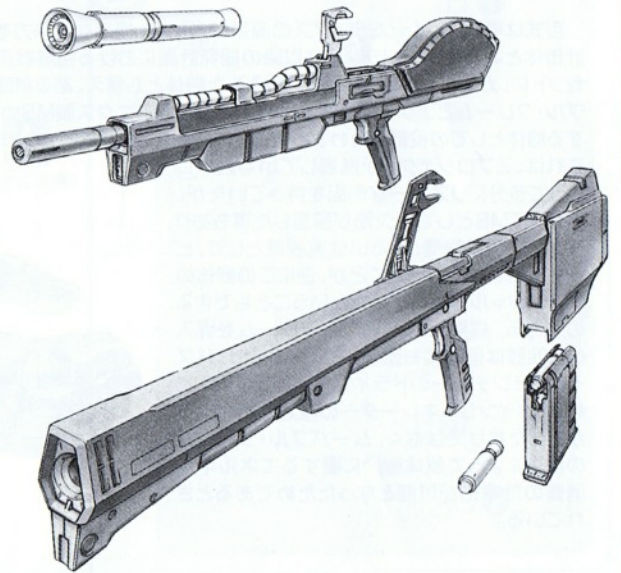
## (武器)

MSN-00100は、メガ・バズーカ・ランチャーなど、研究、開発中の各種装備の実用試験にも頻繁に動員された。それは、この機体の信頼性が高かったことと、内部構造へのアクセスが容易だったからだとすることができるだろう。逆に、通常時の兵装は非常にベーシックなものとなっている。

ビーム・サーベル (BEAM SABER)  
 リック・ディアスなどに採用されたものの同等品。ただし、塗装剤は本体と同じエマルジョンのものが使用されている。

ビーム・ライフル (BEAM RIFLE)  
 百式の専用武装。ただし、ベースとなった武装は、一年戦争当時、一部の部隊に配備された装備。そのアビオニクスを流用し、出力強化などが施されたもので、開発当初の数倍の性能を持つ。

クレイ・バズーカ (CLAY BAZOOKA)  
 本来クレイ・バズーカとは、敵機の撃破よりも内部破壊による稼働不良機、すなわち“足手まとい”とする粘着榴弾などを射出する武装である。エウゴの初期の戦術ではその種の弾頭が多用されていたため、この武装もそう呼ばれているが、実際には他の弾頭も運用可能である。



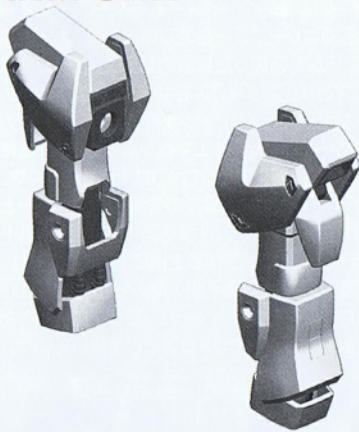




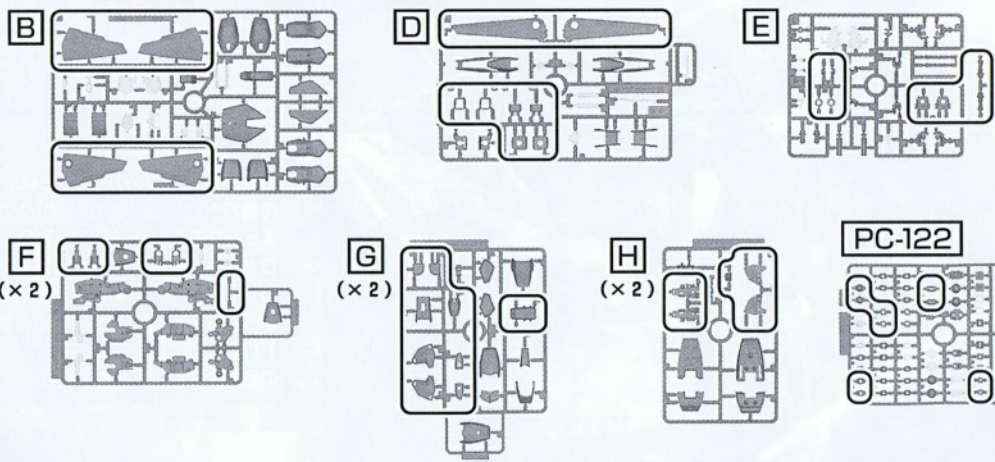


6 7 8 9 10

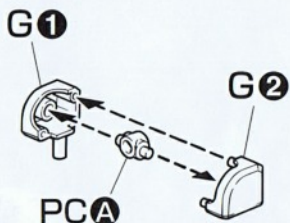
ARM UNIT



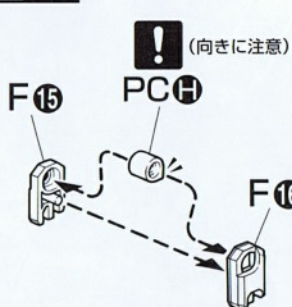
・組立6・7・8・9・10で使用するパーツ



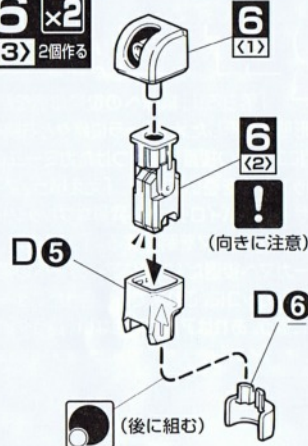
6 x2 (腕部の組立) 2個作る ARM UNIT



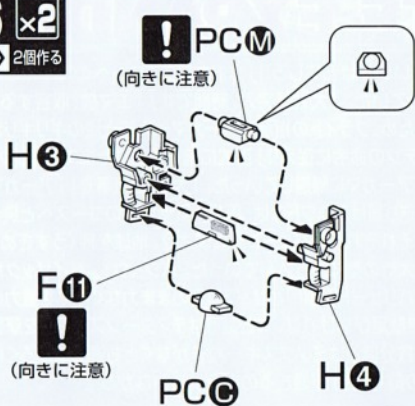
6 x2 (2) 2個作る



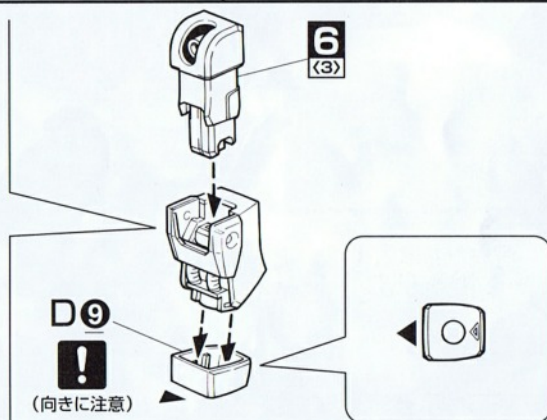
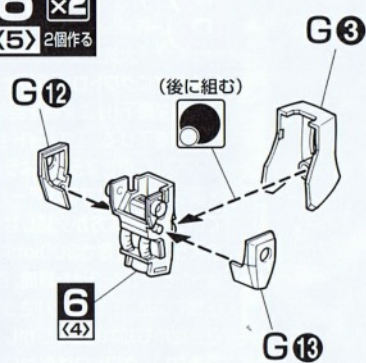
6 x2 (3) 2個作る



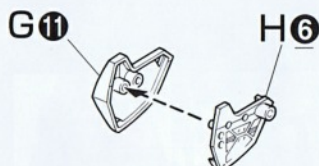
6 x2 (4) 2個作る



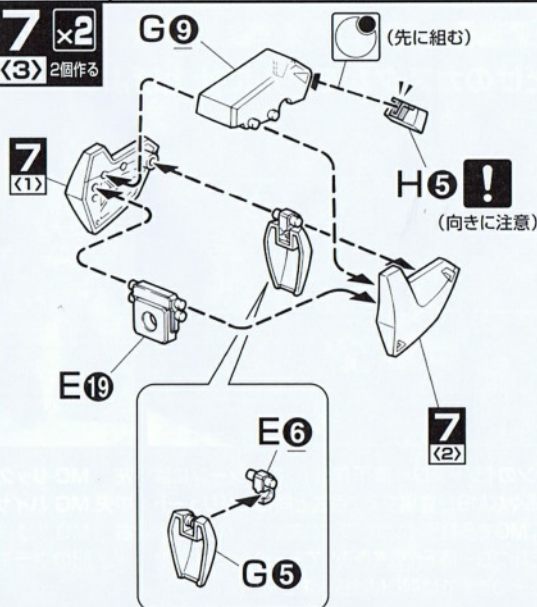
6 x2 (5) 2個作る



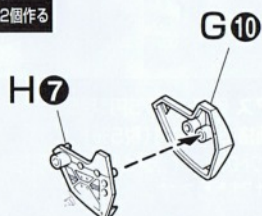
7 x2 (1) 2個作る



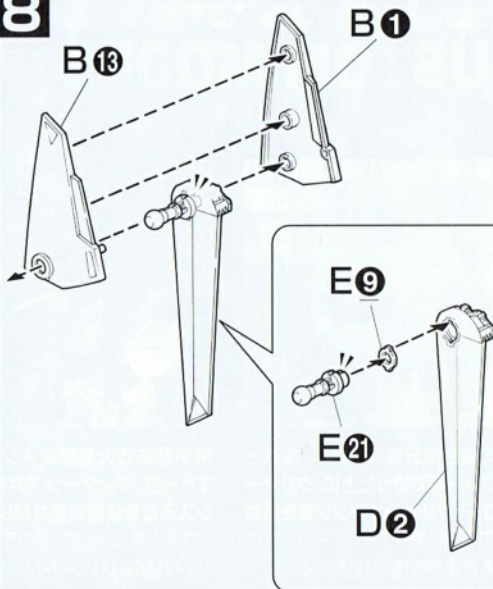
7 x2 (3) 2個作る



7 x2 (2) 2個作る



8



【部品表】(基本説明) 腕部 1 (頭部) 2 (武器) 3~5 (腕部) 6~10 (腰部) 11 (脚部) 12~17 (完成) 18 (ユニット) 19~22 (シール) PARTS LIST HOW TO BODY UNIT HEAD UNIT WEAPONS ARM UNIT WAIST UNIT LEG UNIT FINAL ASSEMBLY BALLUTE SYSTEM SEAL



## BRING DOWN COMMAND

U.C.0087年5月11日。エウゴ艦隊はジャブロー基地攻略のため、大規模な地球降下作戦を実行した。バリユートシステムを装備した無数のMSが、アーガマをはじめとするエウゴの艦艇から出撃し、エマのリック・ディアスをキーとして大気圏突入のための編隊を組みはじめた。と、そこに謎の可変MA メッサーーが再び出現した。「後方のシパンとスルガ!!」「やられた!? ティターンズか!!」エマ機が編隊を離れ、艦隊の後方へ向かう。「落ちろ、カトンボ」メッサーーに乗乗するシロッコはそうつぶやくや、エウゴの艦艇やMSをなぶるように撃ち落とし続ける。編隊の先導役をアポリーとロベルトに任せ、クワトロは百式をアーガマに接触させる。「頭をアポリーとロベルトのリック・ディアス隊に取らせた。エマ機支援に行く」降下作戦を指揮するブライトは、いら立ちを隠しめせずクワトロに指示を出す。「了解。正体不明のMAを叩き落とせ!!」「了解」ブライトの命令に応えつつもクワトロは憂鬱だった。「……と、おっしやるが、ただの敵とは思えん!!」百式を艦隊の後方へと飛ばせながら、クワトロは思わず呻いていた。



## RETREAT TO ARGAMA

「落ちろ!!」編隊への復帰命令を聞かずに突っ込んだエマのリック・ディアスは、MS形態に変形したメッサーーに易々と右腕を斬り落とされてしまった。シロッコの関心は、すでにエマ機の援護に駆けつけたカミーユのMk-IIに移っていたが、その意外な手強さにシロッコは舌を巻いていた。「ええいっ、マイナーチェンジのくせにっ!!」。過日の接触でメッサーーのパイロットから異質なプレッシャーを感じていたクワトロは、なおもメッサーーに追いつがるエマを制止する。「エマ中尉、カミーユに構うな。後退しろ!!」「しかし!?」「アーガマへ後退だ」エマにアーガマへの帰投を命じたクワトロは、カミーユと戦闘を繰り広げるシロッコに、これまでに会ったニュータイプとも異質なものを感じていた。「……明らかに違う。あれはアムロでもない。違うタイプだ!!」クワトロは吐き出すように呻いていた。



## BALLUTE EXPANDED

「大気圏突入だ!! エマ、いいかげんにしろ!!」なおもジャブローへの降下にこだわるエマにクワトロは思わず怒鳴っていた。「大気圏突入、時間です」「エマ機、収容する。アーガマ降下!!」エマ機を回収するため、ブライトの指示でアーガマは大気圏上のギリギリまで高度を下げる。「ブライトキャプテンの命令に従え!!」百式に腕を掴まれたエマのリック・ディアスは、引きずられるようにしてアーガマに帰還していった。「大尉、ご無事で」「アーガマを護ってくれ」エマ機をアーガマに送り届けたクワトロは、再び大気圏突入のコースへと戻っていった。敵味方が交錯しながら、それぞれがバリユートを展開させ、地球を紗(うすぎぬ)のように覆う、厚さ300kmに及ぶ大気圏の壁に突っ込んでいった。バシューッ。ハイザックが放ったビームを避けた瞬間、百式はバリユートを展開させ、仰向けのまま力なく機体を重力に任せていた。「エエイッ」さっきの無駄足がなければ、あと数機はティターンズのMSを撃墜できたかも知れない。しかし、あと数分ほどはミノフスキー粒子がなくとも通信すらろくにできない。クワトロは静かに灼熱の刻(とき)が過ぎるのを待つしかなかった……。

## CUSTOM MODEL キミだけのカスタムモデルに仕上げよう!!

©創通 エーエージェンシー・サンライズ

### ■金色の塗装にチャレンジ!!



百式の金色部分は、最初にシルバーをスプレー等で塗った上に、クリアイエロー、クリアオレンジ等を重ねていこう。陰影をグラデーションにできるとより綺麗に仕上がるぞ!

### ■ジャブロー降下作戦を再現してみよう!!



緊張感ある大気圏突入シーンの「ジャブロー降下作戦」。このシーンにはエウゴ、ティターンズ共に様々なMSが登場する。百式と同様にバリユートシステムを装備可能なMSも、MGで多数ラインナップされている。バリユートシステムを流用して、君の手でジャブロー降下作戦を再現してみても面白いぞ!! (※商品のバリユートシステムそのままでは取り付けられません。)



左 MG リック・ディアス 価格 3,675円(税5%)  
中央 MG ハイザック 価格 3,150円(税5%)  
右 MG リック・ディアス(クワトロ・バジナカラー) 価格 3,780円(税5%)  
※上記のプラモデルは別売りです。

※写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。 ※価格はメーカー希望小売価格です。









# PAINTING





※よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色をご覧ください。

※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラーをお使いください。

	本体等ゴールド部の塗装色。 シルバー(100%)の上に重ねて クリアイエロー(75%) + クリアオレンジ(25%)		フレーム、武器等グレー部の塗装色。 ブラック(50%) + ニュートラルグレー(40%) + レッド(10%) ※またはガンダムカラー ファントムグレー
	胸等ブルー部の塗装色。 ブルー(90%) + ネービーブルー(10%)		サブカメラ等グリーン部の 塗装色。 蛍光グリーン(100%)
	足等レッド部の塗装色。 レッド(95%) + ブラック(5%)		メインカメラ ブラック部 の塗装色。 ブラック(100%)

## バリュートシステム

	外装等グレー部の塗装色。 ミディアムブルー(80%) + レッド(10%) + ブラック(10%) + ホワイト(少量)		バルーン等グレー部の塗装色。 ホワイト(100%) + ミディアムブルー(少量)
	パイプ等グレー部の塗装色。 ミディアムブルー(60%) + ホワイト(30%) + レッド(10%) + ブラック(少量)		バーニア内部等レッド部 の塗装色。 レッド(90%) + ブラック(5%) + イエロー(5%)

## ■ワンポイントステップ スミ入れしてみよう!!

ガンダムマーカースミ入れ用(別売り)などを使用して、ミゾの所に線を引くことで、模型が引き締まります。



[before]

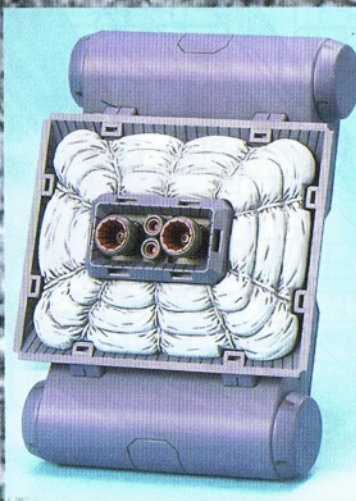


[after]

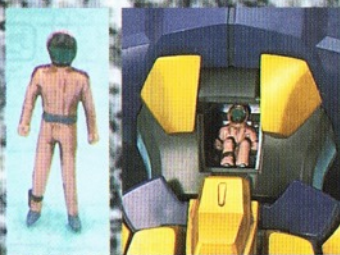
## REAR VIEW



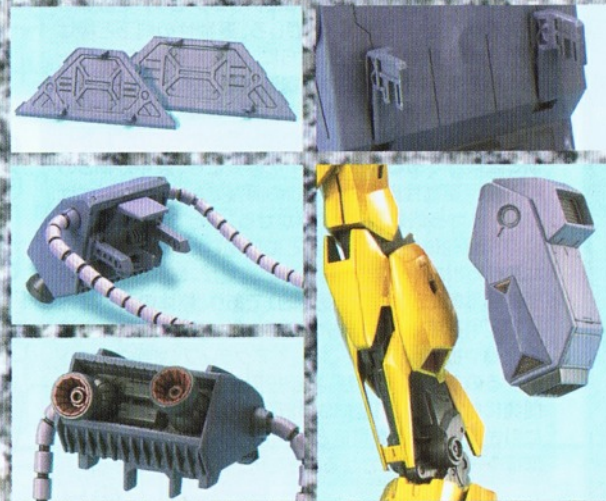
▲ バリュートシステム非装備の百式も再現。バックパックにはクレイ・バズーカ、ビーム・ライフルのマウントが可能。



▲ 背部バリュートパック内部には、収納状態のバルーンを精密に再現。各パーツは、装甲の裏面までメカニカルなディテールを表現し、リアリティーを演出。

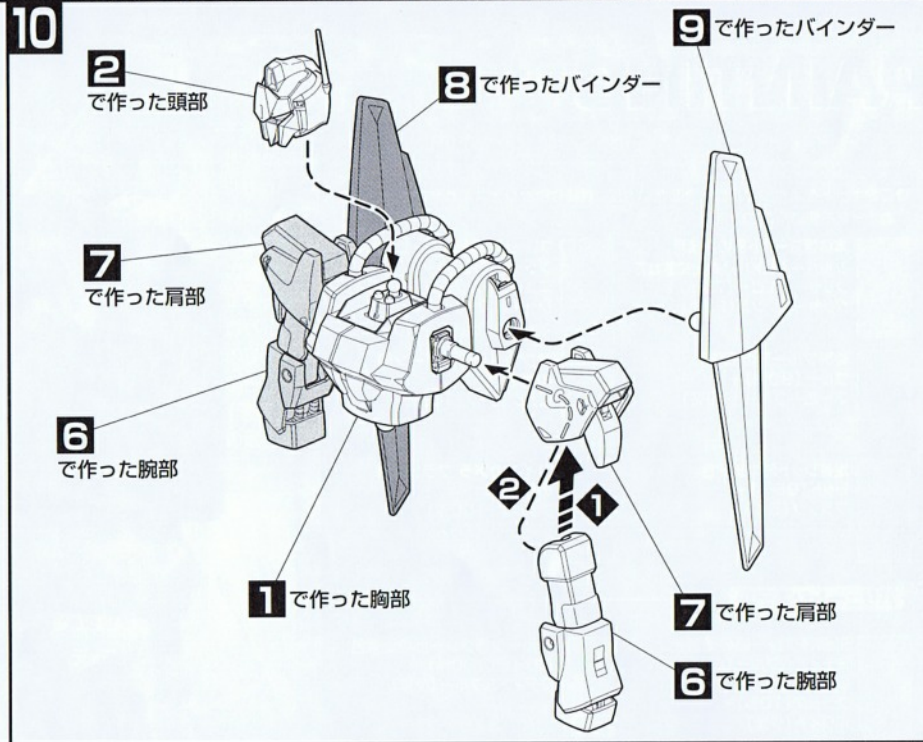
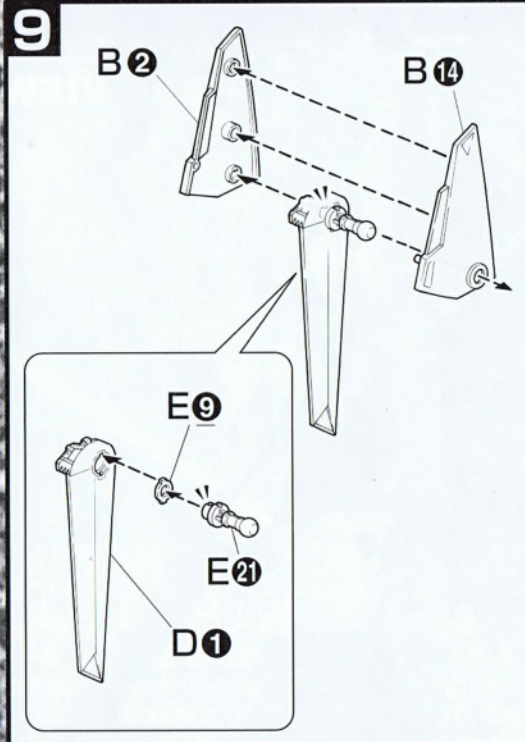


▲ クワトロ大尉のフィギュア付き。コクピットハッチの開閉ギミックも再現。



▲ マガジン着脱式のクレイ・バズーカをはじめ各武装をセット。ビーム・ライフルはエネルギーバック着脱も可能。



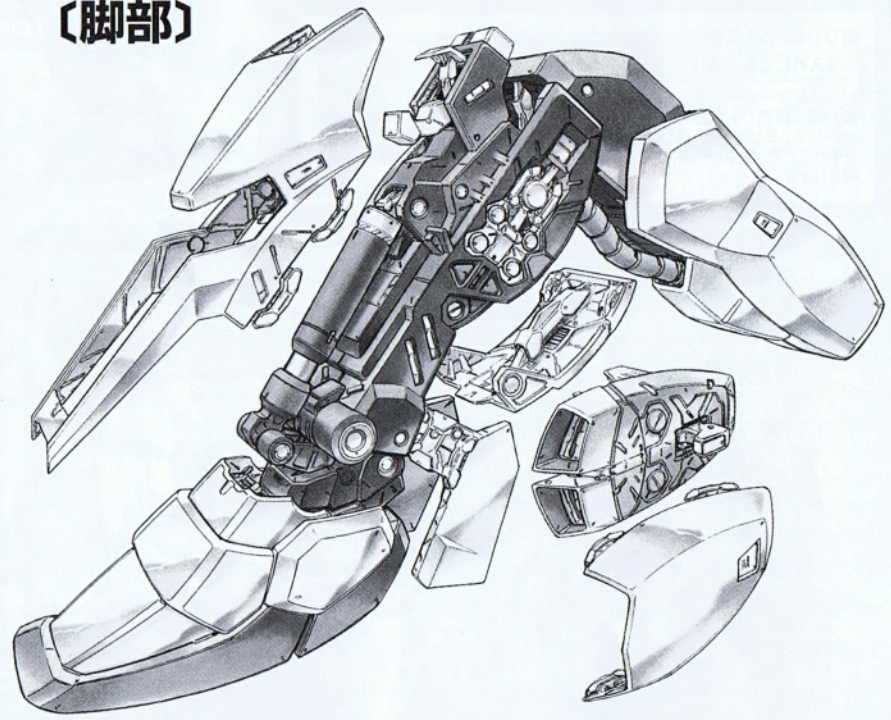


# WAIST UNIT & LEG UNIT

(腰部) (脚部)

百式の脚部は、既存のどのMSとも一線を画す画期的な構造を持っている。すなわち、MSの最終装甲の形状の再検証と、可変MSの開発に不可欠な“可動部の露出”という問題対策の模索でもあった。

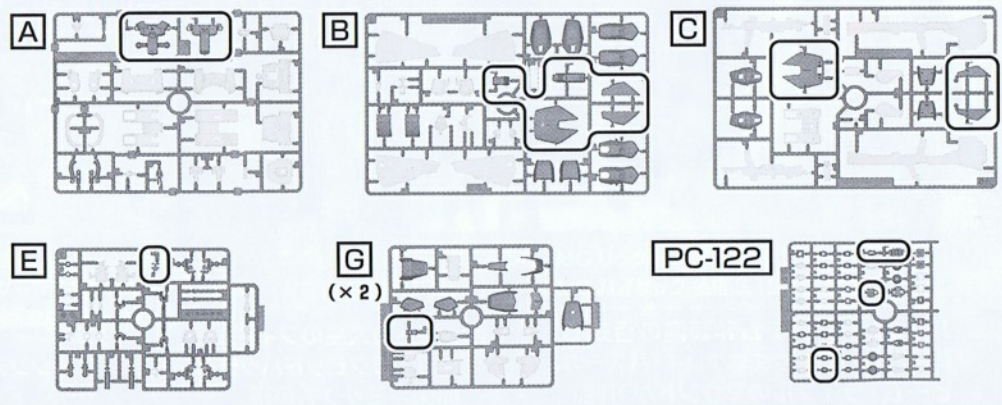
百式の脚部は、意図的に思えるほど内部フレームが露出している。これは、可変MSというコンセプトを放棄したための“欠損”ではなく、むしろ、運動性の向上と機体軽量化の徹底を指標とし、さらに、後の可変MS開発のための基礎研究を行うための構造なのである。MSは、一年戦争の期間中に“擬人化”をほぼ達成した。ムーバブルフレームは、その構想をさらに推し進めたものだ。しかし、MSは兵器であるが故に装甲を必要とし、装甲がMSの擬人化や運動性向上のひとつの障害でもあった。百式は、フレームから最終装甲を“浮かせる”ことで、四肢の運動性を飛躍的に向上させることに成功した。無論、これは本来Mk-IIIによって実現された機能だが、Mk-IIの装甲移動は基本的にパッシブ(受動的)であり、躯体の可動に応じて装甲を移動させるものであった。百式は逆に、自機の可動や被弾状況などに応じてアクティブ(能動的)に移動するのである。これが、実戦投入によって稼働ソフトの開発にも貢献し、可変MSの形状変化レスポンスを大幅に引き上げることが可能とし、可変MSの巨大な躯体を、ほぼ“一瞬”で変形させることを可能としたのである。



## 11 WAIST UNIT



・組立 11 で使用するパーツ





**11** (腰部の組立)  
**(1)** WAIST UNIT

**11** **(2)**

**11** **(3)**

**12** **13** **14** **15** **16** **17**  
**LEG UNIT**

・組立**12**・**13**・**14**・**15**・**16**・**17**で使用するパーツ

**12** **x2** (脚部の組立)  
**(1)** 2個作る  
**LEG UNIT**

**12** **x2** **(3)** 2個作る

**12** **x2** **(4)** 2個作る

**12** **x2** **(2)** 2個作る



**13**  
x2  
2個作る

A15(A16) F3 F4 PCF (向きに注意)

※PCFは奥までしっかりはめ込んでください。

**14**  
x2  
2個作る

PCA F9 F10 PCV (向きに注意) PC1 (向きに注意) PCF (向きに注意) E1 E12 (向きに注意) F7 F8 E17 (向きに注意)

**15**  
(1)

H1 G15 F19 PC1 G18 B8 B16 D3 H2 (先に組む) (向きに注意) G14 (選んで取り付ける)

※G18はバリユートシステムを装備しない場合はG14と交換します。

**15**  
(2)

B21 PCF B27 G16 D18 12

**16**  
(1)

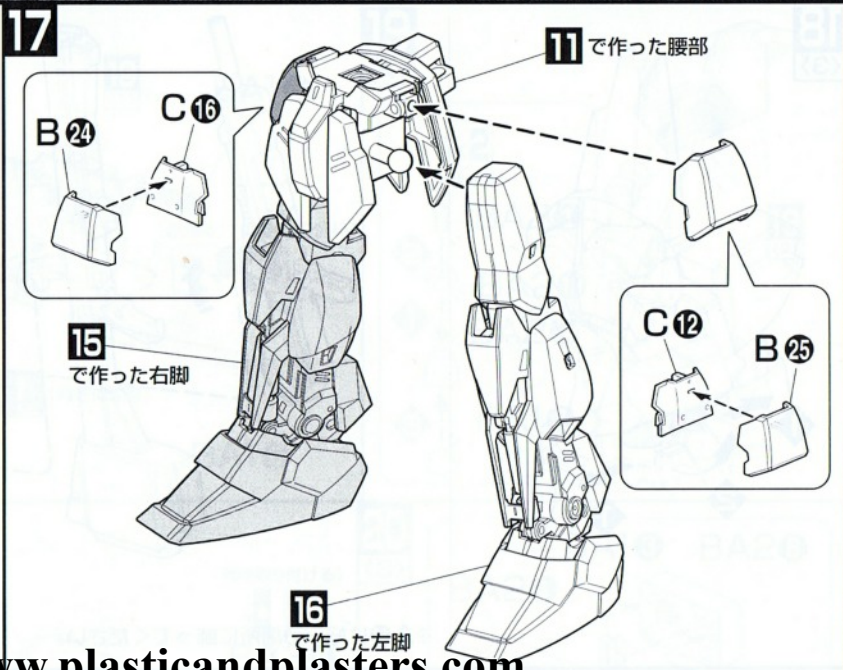
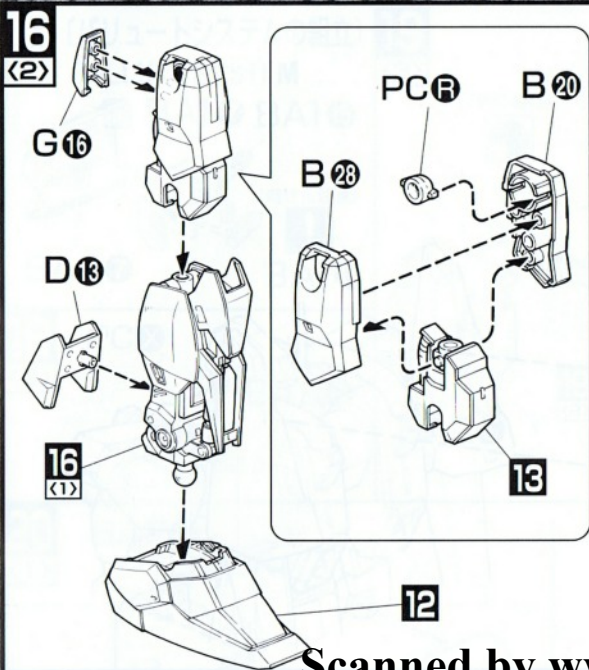
PC1 F19 C3 G15 H1

**16**  
(2)

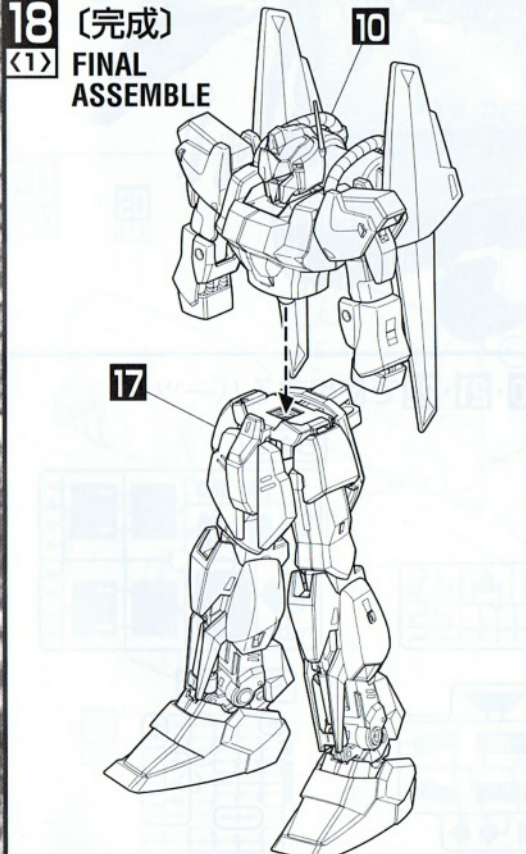
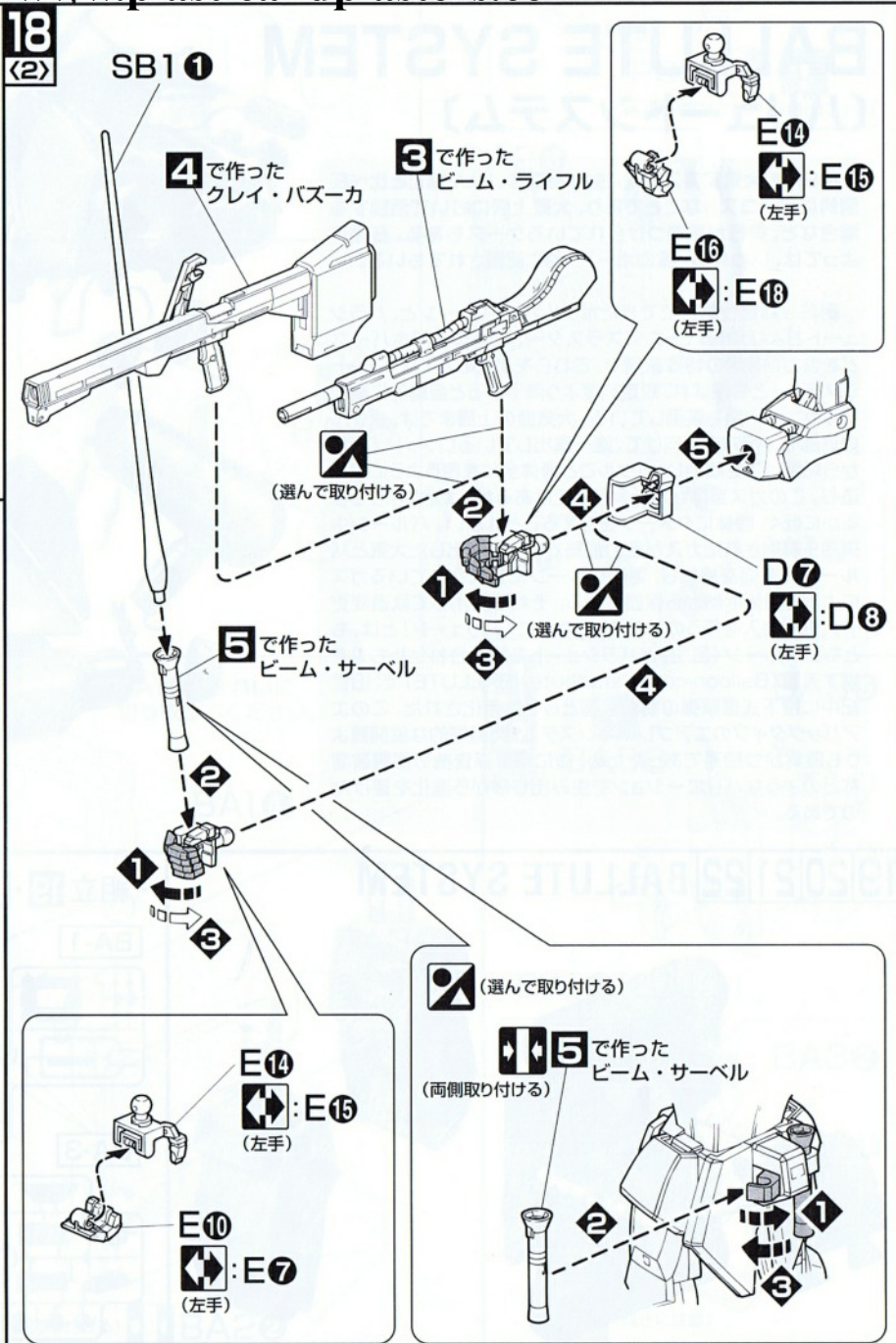
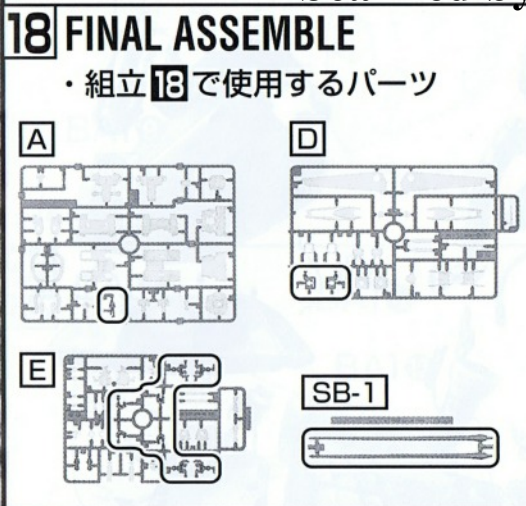
G18 B8 B15 H2 D3 G14 (選んで取り付ける) (先に組む) (向きに注意)

※G18はバリユートシステムを装備しない場合はG14と交換します。

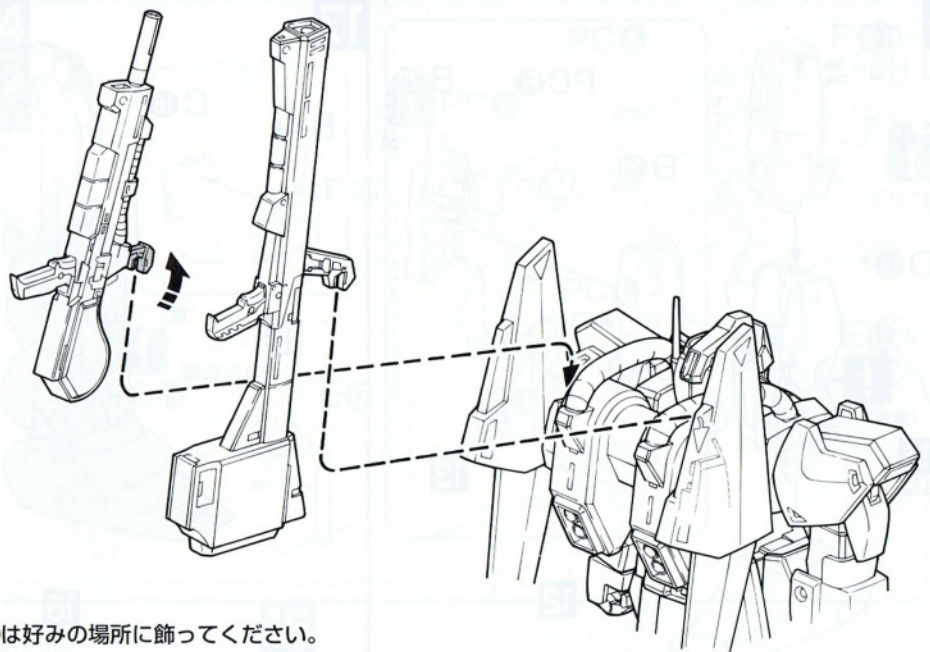




Scanned by www.plasticandplasters.com





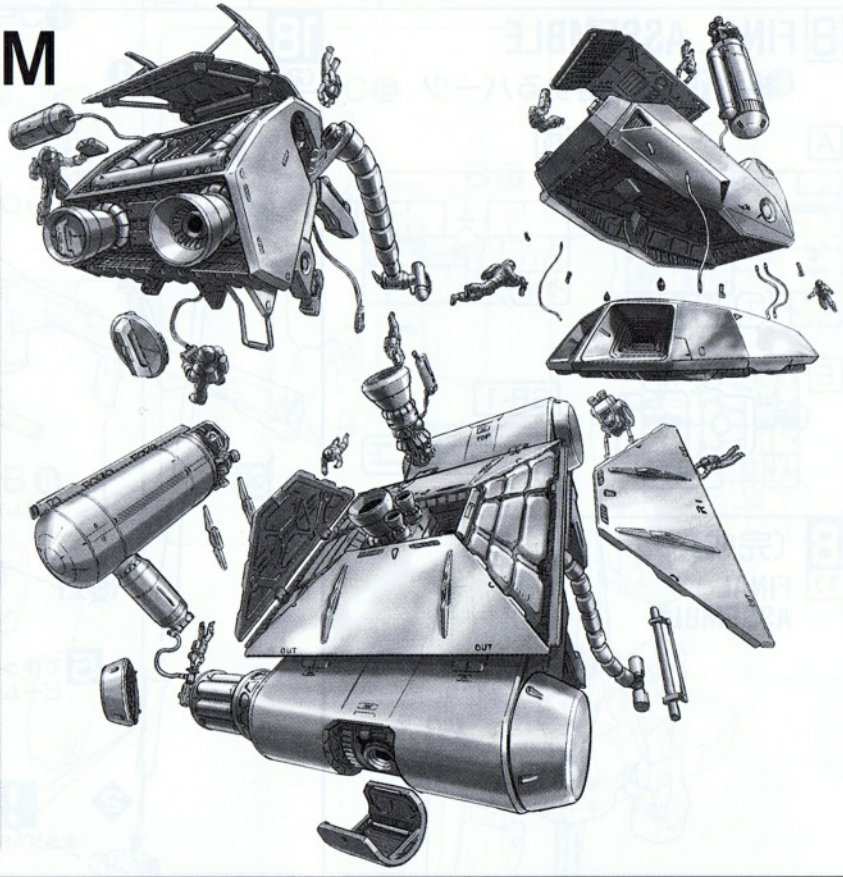


※A⑩は好みの場所に飾ってください。

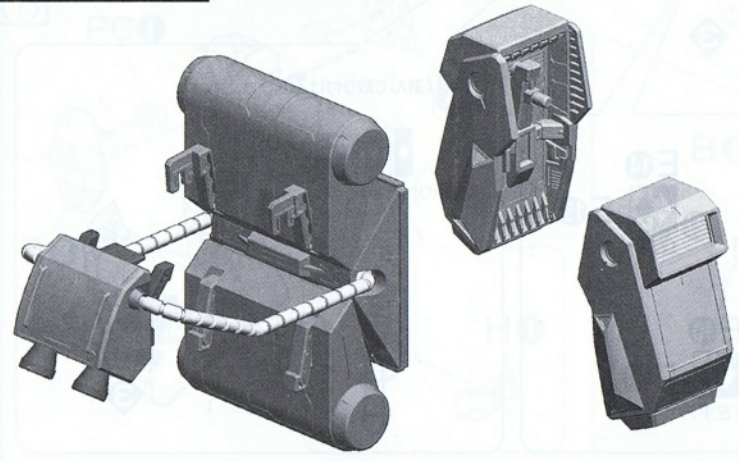
# BALLUTE SYSTEM (バリユートシステム)

MS用の大気圏突入装備。主な特徴は、HLVなどと比べ圧倒的にローコストなことであり、大気上層において活動する場合など、携行が義務づけられているケースもある。任務によっては、いわゆる“救命ポート”的に認識されてもいる。

耐熱/難燃性繊維でできたボウル状のバルーンと、パラシュートおよび増設パーニアスラスタ、地上移動用ホバーなどを含むMS用の特殊装備で、これらをまとめて「バリユートシステム」とも呼ばれ、規定高度より降下すると自動的に展開するセンサー類も装備している。大気圏の上層までは、ボウルの底部を進行方向に向けて、唯一露出しているロケットノズルから燃焼ガスを噴射し、ボウルごと機体全体を覆うように包み込む。このガス自体かなりの高温ではあるが、摩擦熱よりもはるかに低く、機体にダメージを与えることはない。バルーン中央から噴射されたガスが空力加熱でプラズマ化した大気とバルーンの表面を絶縁し、更にバルーンに封入されているガスによって機体は熱から保護される。それを利用して軌道変更や大気圏突入を行うのである。ちなみに「バリユート」とは、もともとバルーン（風船）とパラシュートを組み合わせたものを指す造語（Balloon-com-Parachute=BALLUTE）で、旧世紀中に投下式爆撃弾の制動装置として実用化された。このエアバッグタイプのアブレーキシステムは、機械的な展開翼よりも確実かつ簡易であったため、後に惑星探査機の保護装置などのようなバリエーションを生み出しながら進化を遂げたのである。

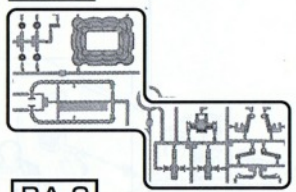


## 19 20 21 22 BALLUTE SYSTEM

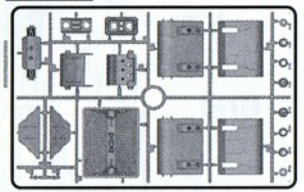


・組立 19・20・21・22 で使用するパーツ

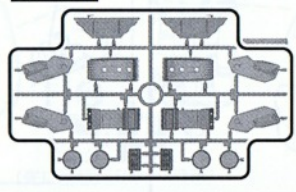
BA-1



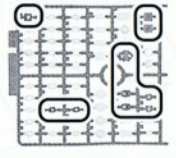
BA-2



BA-3



PC-122





**19** (バリュートシステムの組立)  
**19** (1) BALLUTE SYSTEM  
 BA17 BA15  
 (向きに注意)  
 BA27 BA14

**19** (2) PC BA26

**19** (3)  
 (後に組む)  
 19 (1) BA16  
 (切り取る) (反対側も切り取る)  
 BA26 BA16  
 19 (2) (向きに注意)

**19** (4)  
 x2 (2個作る)  
 2 BA21  
 1 BA213  
 3 BA214  
 BA12  
 19 (3)

**20** (1) BA210 BA19 BA29  
 (反対側に取り付け)  
 BA18  
 (両側取り付け)  
 BA36

**20** (3) BA13 BA28 BA24  
 PC (両側取り付け) (向きに注意)

**20** (2) BA210 BA12 BA18 BA29  
 (両側取り付け)  
 BA36

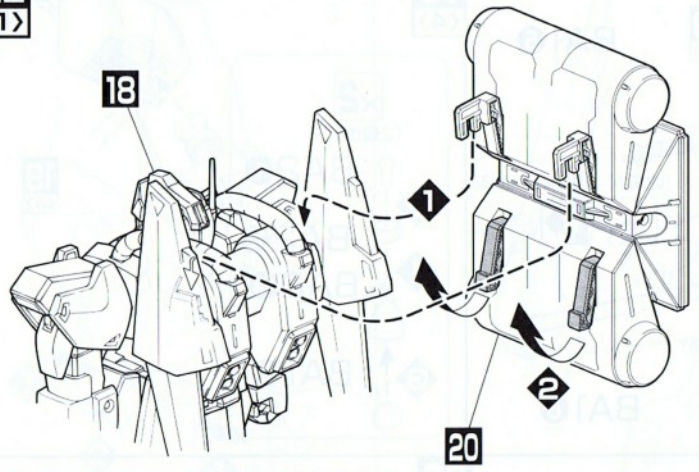
BA23  
 BA210 BA211 BA11  
 2 1

**20** (4) 20 (1) 20 (3) BA14  
 ※BA14はきれいに切り取ってください。  
 (両側取り付け)  
 BA31  
 (両側取り付け) BA22

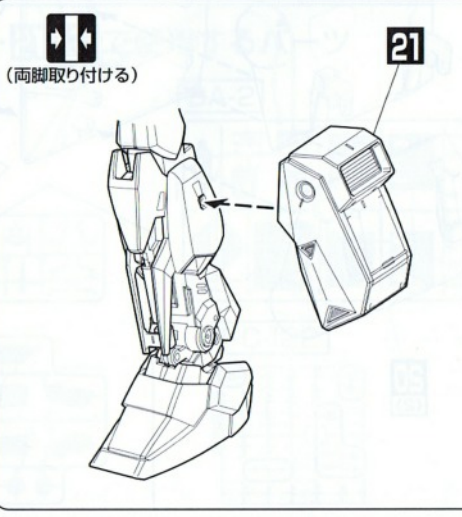
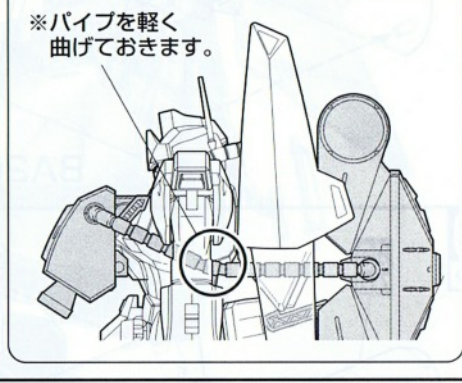
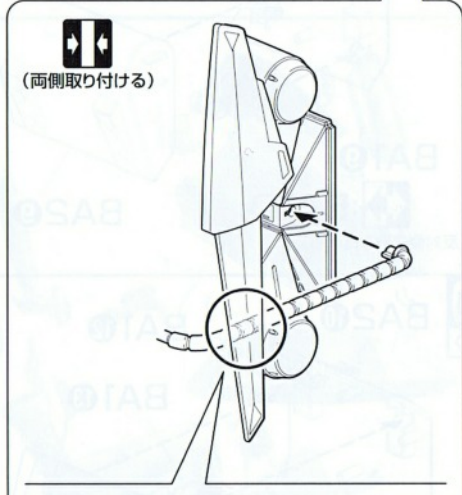
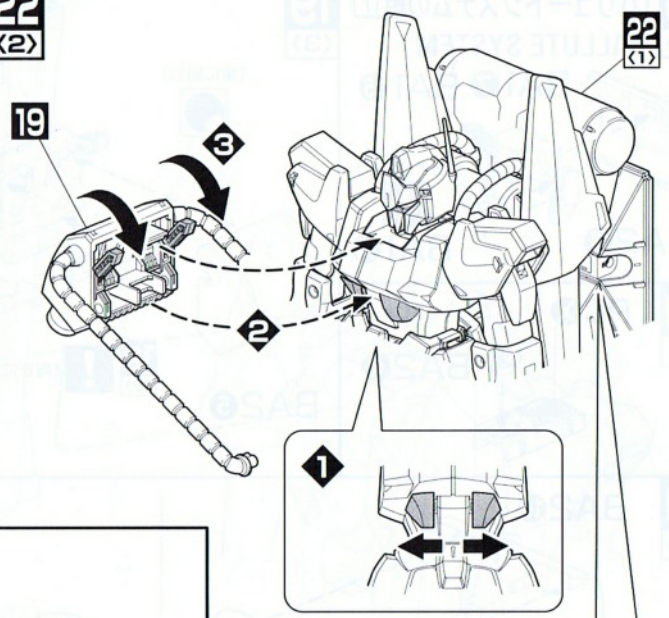
**21** (向きに注意) BA36 BA34 x2 (2個作る) BA10 (BA11) BA30 BA37 (向きに注意)



22  
(1)



22  
(2)





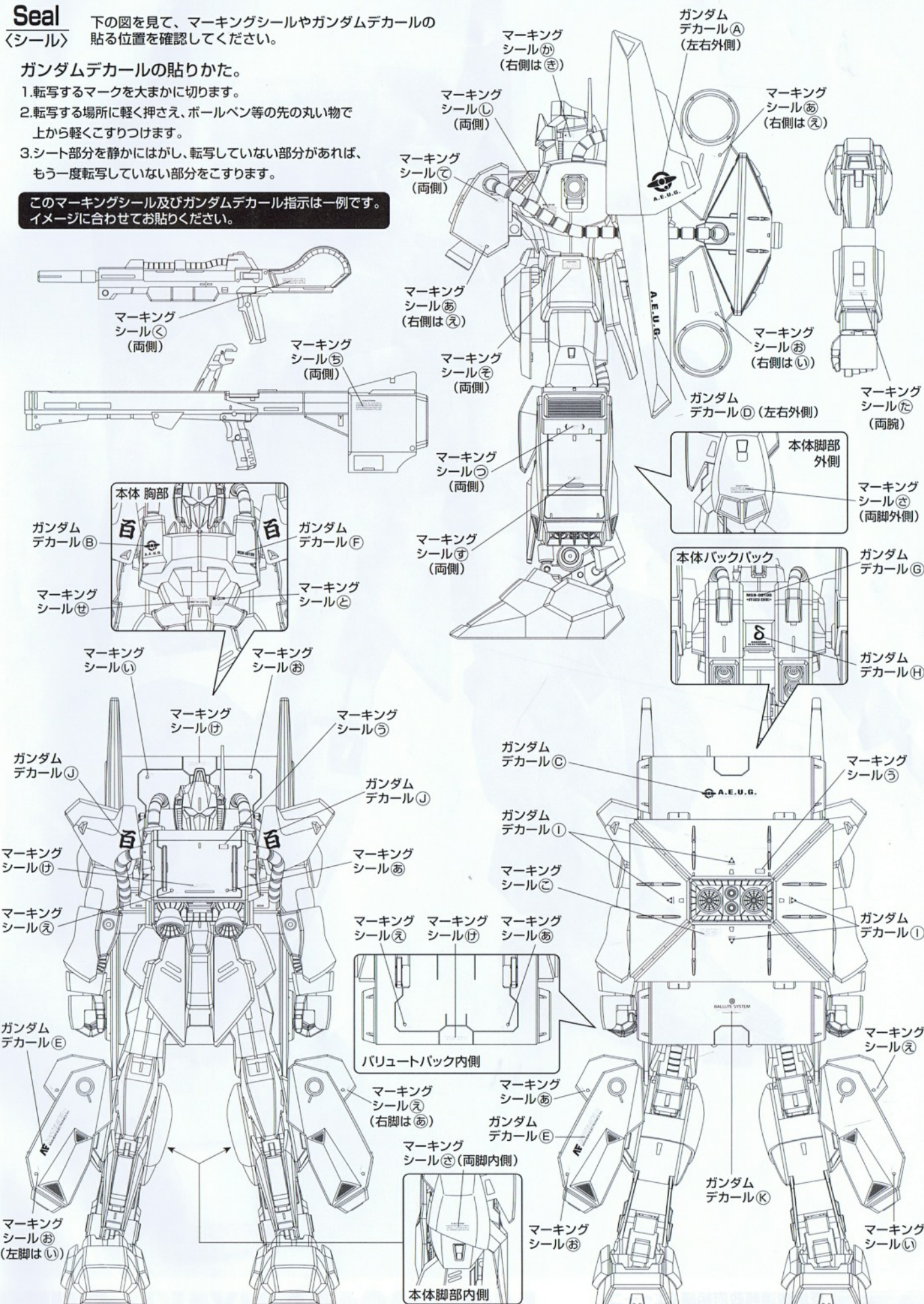
# Seal

下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

## ガンダムデカールの貼りかた。

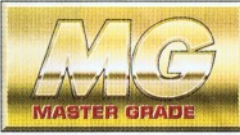
1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

このマーキングシール及びガンダムデカール指示は一例です。イメージに合わせてお貼りください。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。





反地球連邦政府組織 (エウゴ)  
攻撃型モビルスーツ  
MSN-00100「百式+バリュートシステム」  
1/100スケール  
マスターグレードモデル

**MSN-00100 HYAKU-SHIKI**  
**+BALLUTE SYSTEM**  
A.E.U.G. ATTACK USE PROTOTYPE MOBILE SUIT